

【復活のトロパリ 第7調】

ハリストスか神みよ、なんぢはじゅうじかにてしを
死
ほろぼし、とうぞくのためにらくえんをひ開
らき、けいこうちよのかなしみをなぐさ
め、しとになんぢがふくかつして、せか
世界
いにお大あわれみをたまいしをつたえ
傳
させたまえり。

【変容祭前期のトロパリ 第4調】

しんじゃよ、きたりてハリストスのへんようをむかあ
信者來變容迎
え、さいぜんきをよろこばしくいわいてよ
祝
ばん、しんせいなるたのしみのひはちかづけ
神聖樂日遁
えり、しゅはファボルさんにのぼり、そのしん
神
せいのうるわしきをかがやかす。
性美輝

【復活のコンダク 第7調】

こうえいはちちとこ子とせいし神んにいき歸す。
死のけんはすでにひとびとをとらうるあた能
わざず、けだしひリストはくだりてそのち力
からをやぶりてほろぼしたまえり。ちご地獄
くはしばられ、よげんしゃはどうしんによろ
こびてよぶ、きゅうせいしゅはしんにおる
ものにあらわれたり、しんじやよふく
か活つしてい出でよ。

【変容祭前期のコンダク 第4調】

いまもいつうもよよ世に、アミン。
今何時うもよよ世に、アミン。

こんに ちしんせ いなるへんよ うのう ちに、ひ人
 今 日 神 聖 變 容 中

と のほんせ いはせ いなるかがやきにみたさ れ
 本 性 聖 輝 滿

て、たのしみてよ おぶ、ハリストスはへんよ
 樂 呼 變 容

うしたまえり、ばんみんをすくわんためな
 給 萬 民 救 爲

り。

司祭) (黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有と

なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、

ねがるものに智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔

を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な

る祭壇の光榮の前に立て、爾に當然の伏拝讃榮を奉るに堪うる者と

なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を

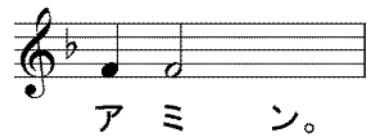
もつわ我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と

を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる

生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人ととの祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世

に、



【聖三祝文】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖神聖勇毅聖

じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常生者我等を憐め

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖神聖勇毅聖

なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常生者我等を憐め

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖神聖勇毅聖

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
常生者我等を憐め

れめよ。こうえいはち父とことせいしん
光榮父と子と聖神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸今何時世世

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖常生者我等を憐め

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖神聖勇毅聖

き、せいなるじょうせいのものよ、われら等
毅聖常生の者
あわれめよ。
憐

司祭) (黙誦: 主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第7調 】

司祭) つしきしゅうじんへいあん
慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) なんぢしんの神にも、

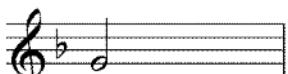
司祭) えいち
睿智、

誦經) プロキメン、主は其民に力を賜い、主は其民に平安の福を降さん、

しゅはそのたみにちからをたまい、しゅは
主其民力賜
そのたみにへいあんのふうくうをくだ
其民平安福をく降
さん。

誦經) 神の諸子よ、主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ、

しゅはそのたみにちからをたまい、しゅは
主其民力賜
そのたみにへいあんのふくくをく降
其民平安福をく降



さ ん。

誦經) しゅ そのたみ ちから たま
主は其民に力を賜い、

しゅはそのたみにへいあんのふうくうをく降

ださん。

【アポストロス
使徒經 124端 コリンフ前書1章10節～18節】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パヴェルがコリンフ人に達する前書の讀、

司祭) 謹みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、我等の主イイスス・ハリストスの名に由りて、我爾等に求む、爾等皆言う所

おなかつなんぢらうちわかれすなわちなんぢらこころいつおもいいつあいあ
を同じくし、且爾等の中に分争なく、乃爾等心を一にし、意を一にして相合う

けだしわけいていなんぢらつかじんわれなんぢらうちあらそい
べし。蓋我が兄弟よ、爾等に就きて、ハロヤの家人より、我に爾等の中に争のあ

ることを告げられたり。我が言う所は、即爾等各言えるあり、我はパヴェルに属す、

われ我はアポルロスに属す、我はキファに属す、我はハリストスに属すと。豈ハリストスは分れ

あになんぢらためじゅうじかていそもそもなんぢらなよ
しか、豈パヴェルは爾等の爲に十字架に釘せられしか、抑爾等はパヴェルの名に藉り

せんうかみかんしゃわれおよほかなんぢらうちだれせんさづ
て洗を受けしか。神に感謝す、我はクリスチ及びガイの外、爾等の中誰にも洗を授け

ひとあるいは我れわなよさづいためわれまた
しこなし、人或は、我は我が名に藉りて受けたりと言わざらん爲なり。我亦ステファン

いえせんさづこのほかなんびとさづいなしけだしわれつかわ
の家に洗を受けたり、此の外何人に受けたりや否やを知らず。蓋ハリストスの我を遣

せんさづためあらすなわちふくいんつたためまたことばちえもち
ししは、洗を受けん爲に非ず、乃福音を傳えん爲なり、又言の智慧を用いしめず、

じゅうじかむなためけだしじゅうじかことばほろものため
ハリストスの十字架の虚しくならざらん爲なり。蓋十字架の言は、滅ぶる者の爲に

ぐわれらすくものためかみちから
は愚なり、我等救わるる者の爲には神の能なり。

(比較用 口語訳)

さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ることを一つにし、お互の間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。わたしの兄弟たちよ。実は、クロエの家の者たちから、あなたがたの間に争いがあると聞かされている。はつきり言うと、あなたがたがそれぞれ、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケペに」「わたしはキリストに」と言い合っていることである。キリストは、いくつにも分けられたのか。パウロは、あなたがたのために十字架につけられたことがあるのか。それとも、あなたがたは、パウロの名によってバプテスマを受けたのか。わたしは感謝しているが、クリスピオとガイオ以外には、あなたがたのうちのだれにも、バプテスマを受けたことがない。それはあなたがたがわたしの名によってバプテスマを受けたのだと、だれにも言われることのないためである。もっとも、ステパナの家の者たちには、バプテスマを受けたことがある。しかし、そのほかには、だれにも受けた覚えがない。いったい、キリストがわたしをつかわされたのは、バプテスマを授けるためではなく、福音を宣べ伝えるためであり、しかも知恵の言葉を用いて宣べ伝えるためであった。それは、キリストの十字架が無力なものになってしまわないためなのである。十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

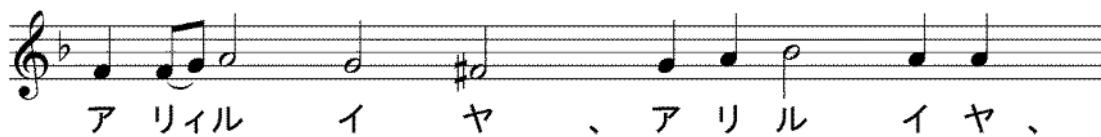
【 アリルイヤ 主日第7調 】

司祭) なんぢ 爾 に 平 安 、

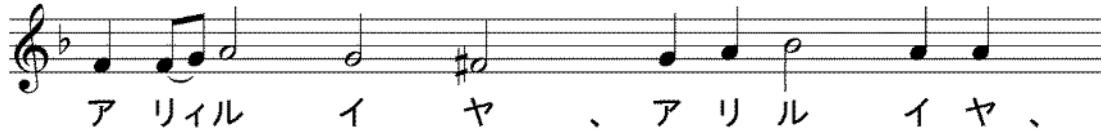
誦經) なんぢ 爾 の 神 に も 、

司祭) えいち 睿 智 、

誦經) アリルイヤ、



誦經) しじょうしゃ シュ さんえい なんぢ な うた び かな
至 上 者 よ、 主 を 讚 荣 し、 爾 の 名 に 歌 う は 美 なる 哉 、



誦經) なんぢ あわれみ あさ の なんぢ まこと よ の び かな
爾の憐を朝に宣べ、爾の眞を夜に宣ぶるは美なる哉、

A musical score for a hymn. It consists of two staves of music. The first staff is in G major and the second is in F major. The lyrics are written below the notes.

ア リ イ ル イ ャ 、 ア リ イ ル イ ャ 、
ア リ ル イ ャ 。

司祭) (黙誦: ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん
人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の淨き光を輝かし、我が思念
め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ
の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を
おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ
畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所
おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ
を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、
なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん
爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし
いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ
て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【 エヴァンゲリオン
福音 經 マトフェイ福音書58端 14章14~22節 】

司祭) 睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、

A musical score for a hymn. It consists of one staff of music. The lyrics are written below the notes.

なんぢのし神んにも。
爾

司祭) マトフェイ傳の聖福音經の讀、

A musical score for a hymn. It consists of two staves of music. The lyrics are written below the notes.

しゆよ、こうえいはなんぢにき歸
主 光 榮 爾
はなんぢにき歸
爾

司祭) 謹みて聽くべし、彼の時イイスス出でて、群衆を見て、之を憫み、其病める者を醫
せり。日暮るるに及びて、門徒彼に就きて曰えり、此は野の處にして、時已に晩し、民
を去らしめよ、彼等が諸村に往きて、己の爲に食を市わん爲なり。然れどもイイスス彼

らい その ゆう なんぢらこれ しょく あた かれらいわ われら ここ ただいつつ
 等に謂えり、其往くを要せず、爾等之に食を與えよ。彼等曰く、我等には此に唯五
 パン ふたつ うお かれい これ ここ われ たづさ きた すなわちたみ めい くさ
 の餅と二の魚とあるのみ。彼曰えり、之を此に我に攜え來れ。乃民に命じて、草
 うえ ざ いつつ パン ふたつ うお と てん あお しゆくふく パン さ これ
 の上に坐せしめ、五の餅と二の魚とを取りて、天を仰ぎて祝福し、餅を擘きて、之
 もんと あた もんとたみ あた みなくら あ そのあま くづ ひろ じゅうに かご
 を門徒に與え、門徒民に與えたり。皆食いて飽き、其餘りたる屑を拾いて、十二の筐
 み くら もの おんな こども ほか およそせんにん ただち そのもんと
 に盈てたり。食いし者は、婦と幼童との外、約五千人なりき。イイスス直に其門徒
 うなが ふね のぼ みづか たみ さ あいだ おのれ さき か きし ゆ
 を促して、舟に登らしめ、自ら民を去らしむる間に、己に先だちて、彼の岸に往か
 しめたり。

(比較用 口語訳)

イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。夕方になつたので、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。群衆を解散させ、めいめいで食物を買いに、村々へ行かせてください」。するとイエスは言われた、「彼らが出かけて行くには及ばない。あなたがたの手で食物をやりなさい」。弟子たちは言った、「わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません」。イエスは言われた、「それをここに持ってきてなさい」。そして群衆に命じて、草の上にすわらせ、五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群衆に与えた。みんなの者は食べて満腹した。パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。食べた者は、女と子供とを除いて、およそ五千人であった。それからすぐ、イエスは群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸へ先におやりになった。

しゆよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
 主光榮爾歸
 はなんぢにきす。
 爾歸

※聖体礼儀3（金口イオアン）へ